

学校法人 河原学園 未来高等学校 R7年度年間指導計画

教科	公民	科目	政治・経済	学年	3 年次	単位数	2 単位
教科書	東京書籍	政治・経済	副教材	なし			
レポート 添削指導	6 通	スクーリング 面接指導	2 回	メディア 視聴票	1 通	試験	2 回
指導 目標	現代の日本、世界に生きる市民として、必要な政治的、経済的、社会的事象を正確に把握し、自己の問題として考える資質を身につけさせる。						
No	日付	レポート 提出日	単元	学習内容	面接 回数	メディア(NHK高校講座)	
1	4 月 12 日	5 月 22 日	第 1 編 現代日本の政治と経済 第 1 章 現代日本の政治 1 節 民主政治の基本原則 2 節 日本国憲法の基本原則	【近代民主政治の成立過程と日本国憲法について理解を深めていく】 1 民主政治の成立 2 法と民主政治 3 基本的人権の確立 4 現代の民主政治 5 世界のおもな政治体制 6 日本国憲法の制定と基本原則 7 基本的人権の保障 8 平和主義	1	1 政治・経済のまなび 方 2 民主政治の成立 3 現代の民主政治 4 日本国憲法の制定 5 基本的人権の保障 6 新しい人権 7 平和主義 8 国会と立法 9 内閣と行政 10 裁判所と司法 11 地方自治 12 戦後政治と政党 13 選挙と政治参加 14 国際関係と国際法 15 国際連合 16 国際政治の動向 17 地球環境と資源エ ネルギー問題	
2	5 月 22 日	6 月 19 日	3 節 日本の政治機構 4 節 現代政治の特質と課題	【日本の政治機構について理解を深め、国民の役割について認識する】 1 国会と立法 2 内閣と行政 3 裁判所と司法 4 地方自治 5 戦後政治と政党 6 選挙と政治意識			
3	6 月 19 日	7 月 17 日	第 2 編 グローバル化する国際社会 第 1 章 現代の国際政治 1 節 国際政治のしくみ 2 節 複雑化する国際政治と日本	【現代世界が抱える政治・経済・社会的諸問題について理解し、自分たちの役割について考えていく】 1 国際社会と国際法 2 国際連合の役割と課題 3 戦後国際関係の展開と日本 4 冷戦後の国際関係と日本 5 地域主義の動き 6 軍縮の動向と課題 7 紛争・難民・テロリズム			
4	7 月 17 日	10 月 29 日	第 2 章 現代日本の経済 1 節 現代の資本主義経済 2 節 現代経済のしくみ	【市場経済の機構について理解をするとともにその課題について掘り下げていく】 1 経済活動の意義 2 資本主義経済の発展と変容 3 経済主体と経済の循環 4 生産のしくみと企業 5 市場経済の機能と限界 6 国民所得と経済成長 7 金融のしくみと機能 8 財政のしくみと機能	1	18 資本主義体制の成立と発展 19 家計・経済・政府 20 生産のしくみと企業 21 市場経済の機能と限界 22 国民所得と経済成長 23 金融のしくみと機能 24 財政のしくみと機能 25 日本経済のあゆみ 26 日本経済の現状 27 公害と環境保全 28 消費者問題 29 農業・食料問題 30 中小企業の現状と課題 31 雇用と労働問題 32 社会保障と福祉 33 貿易と国際収支 34 国際経済体制の展開 35 発展途上国の経済 36 地域主義とグローバリズム 37 少子高齢社会において社会保障はどうあるべきか？ 38 地域社会を活性化するにはどうすればよいのか？ 39 どのようにして若者の労働環境を改善するか？ 40 地球環境にやさしいエネルギーをどう確保するか？ 41 経済援助は貧困を削減できるか？ 42 地球市民社会で日本がなすべきことは何か？	
5	10 月 29 日	11 月 27 日	3 節 日本経済の発展と現状 4 節 福祉社会と日本経済の課題	【戦後から現在に至るまでの日本の経済をめぐる諸課題について知り、考える】 1 戦後日本経済の発展 2 日本経済の現状 3 公害と環境保全 4 農業・食料問題 5 中小企業の現状と課題			
6	11 月 27 日	1 月 23 日	4 節 福祉社会と日本経済の課題 第 2 章 現代の国際経済 1 節 国民経済と国際経済 2 節 世界経済の現状と課題	【少子高齢化時代のわが国の社会保障等について考える】 1 雇用と労働問題 2 社会保障と福祉 【世界経済の現状とその課題について考える。】 3 貿易と国際収支 4 戦後国際経済体制の展開 5 発展途上国の経済 6 グローバル化する世界経済 7 地球環境問題			
学習の成果に係る評価規準							
【知識・技能】 ・主権国家、日本の政治機構（憲法、法の支配、国会・内閣・裁判所のしくみ）、政党政治について基礎的知識が身についているか。 ・国際政治の歩みと原則について、正しく理解できているか。 ・市場経済のしくみ、金融、財政の役割について正確に理解できているか。							
【思考力・判断力・表現力】 ・立憲主義と基本的人権の保障について、自分たちの事柄として捉えられているか。 ・現代の国内外の諸問題や国際情勢について、自分たちのものとして捉え、把握できているか。							
【主体的に学習に取り組む態度】 ・若者の政治参加について、主体的に考えられているか。 ・少子高齢化時代の我が国の抱える問題について、考えを及ぼせることができているか。 ・環境問題や紛争、貧困や飢饉について、考えを及ぼせることができているか。 ○上記の評価規準に基づき、レポート及び課題等の提出物の状況、スクーリングに取り組む姿勢及びスクーリングに基づく成果、前期・後期 2 回の試験結果を総合的に判断して、評価を行う。 ○【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学習に取り組む態度】の 3 つの観点ごとに、それぞれ上位から A、B、C の三段階で評価を行い、その観点別評価に基づき、総合的な評価を 5 段階（最上位を 5 とし、最下位を 1 とする）で評価する。							
単位の修得の認定に関する基準							
観点別評価に基づいて総合的に評価された 5 段階評価のうち、5～2 の評価を受けた者に対して、科目に配当された単位数の修得を認める。							